

施工プロセス検査・出来高部分払いの適切工種に関する一考察

(財) 港湾空港建設技術サービスセンター 正会員 ○ 松浦 壽彦
 (財) 港湾空港建設技術サービスセンター 正会員 吉田 秀樹
 (財) 港湾空港建設技術サービスセンター 和田 秀俊

1. 目的

平成17年「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が施行され、公共工事において品質を確保する各種施策が進められている。その一環として、工事段階における「品質確保」、請負者の「キャッシュフローの改善」、発注者、受注者間（元請け、下請け間）の「双務性の向上」のため、港湾工事において、平成19年度より、プロジェクトXとして「施工プロセス検査・出来高部分払い方式」が試行されている。今後この方式が試行から本格導入になった場合、全工事導入か選択制になるかが施策の大きな分岐点となる。

本稿においては、国土交通省港湾局よりの受注業務「施工プロセス検査方式等の確立に向けた検討業務」の中で実施した、本方式の試行工事の受発注者へのアンケートなどから、本方式が実施しやすいと思われる工種について検討した結果を報告するものである。

2. 港湾工事における試行の状況

港湾工事においては図-1に示すとおり平成19年度より試行工事を実施し平成21年度は、90件実施している。

3. 出来高部分払いと工種との関係

出来高部分払いと工期との関係を図-2に示す。図から分かることは以下のとおりである。

- ① 工期が長くなるほど部分払い回数が増加する。
- ② 部分払い回数1回、2回については工期と相関はないが、3回になると工期としては180日未満はない。
- ③ 工期180日でも部分払い5回のものがある。（毎月1回払い、防波堤築造）
- ④ 金額と支払回数との関係は余り見られない。金額が小さくても工期が長ければ部分払い回数は多い。（ブロック製作）

一方、工種と部分払い回数との関係を図-3に示す。部分払い回数では、工期の影響が出るので、支払間隔（＝工期／（支払回数＋1））との関係を示す。整理の方法として、①45日から60日の支払間隔の多い工種、②45日未満の支払が多い工種の順に整理した。その結果分かることは以下のとおりである。

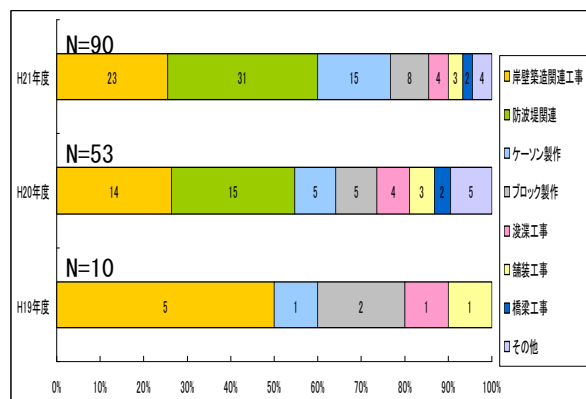


図-1 試行工事の内訳

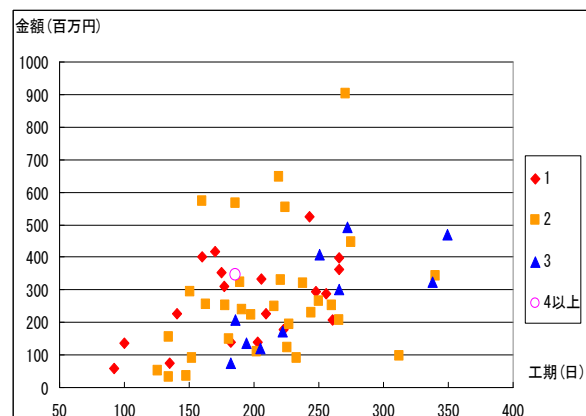


図-2 工期と部分払い回数との関係

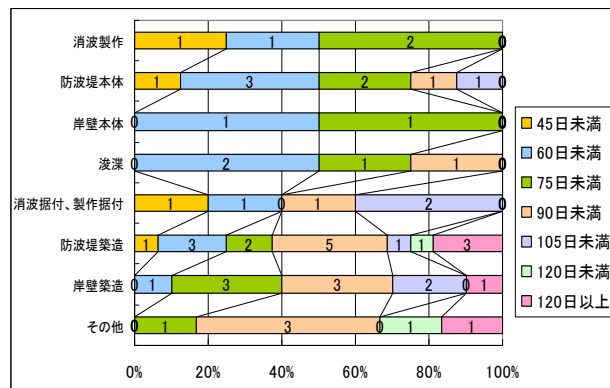


図-3 工種と部分払い間隔との関係

キーワード 施工プロセス検査、出来高部分払い、品質確保、キャッシュフロー

連絡先 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-1 (財) 港湾空港建設技術サービスセンター TEL 03-3503-2803

- ① 消波製作、防波堤・岸壁本体のケーソン・ブロック製作等出来高が把握しやすい工種の支払間隔が短い。
 ② 防波堤・岸壁築造といった工種の複雑な工種については、支払間隔は長く、その分布もバラバラである。

4. 出来高部分払い適切工種について（アンケート）

表－1 アンケート結果

表－2 アンケート結果

試行工事を実施した受発注者に行ったアンケート

（発注者）

（受注者）

の中で「出来高部分払いが実施しやすいと考えられる工種」についてもアンケートした。その結果を表－1，2に示す。

項 目	回答数
ブロック製作	15
ケーソン製作	14
ケーソン据付	2
基礎工	2
土工	2
その他	15

項 目	回答数
基礎工	13
本体工	8
上部工	7
被覆・根固工	6
裏込・裏埋工	5
ブロック製作工	4
進水・仮置工	3
ケーソン製作工	2
浚渫	2
消波工	2
その他	14

- ① 発注者は、ブロック製作、ケーソン製作、受注者においても本体工、上部工など、工種の少ない工事、目視検査の容易な工事、出来高の把握しやすい工事が適切工種として回答。
 ② 受注者においては、水中工事を伴い工種の多い基礎工を適切工種として回答。
 ③ 受発注者間で基礎工に関する見解が相違。
 ④ 発注者においては、実施に工夫が必要な工事として浚渫が最も多かった。出来形、出来高確認が大変なためと思われる。

5. 出来高部分払い適切工種について（ヒアリング）

表－3 ヒアリング結果（受注者）

今回、試行の中で最も部分払いの多かった工事（5回、毎月払い、防波堤築造）、適切工種として回答の多かったブロック製作工事（3回）について、試行工事についてヒアリングを実施し、適切工種についてもヒアリングした。結果を表－3に示す。受注者にとって、適切工種の判断基準が出来高の把握のしやすさと下請けに支払うための出来高の締め切りの時期にあることが分かる。

6. 出来高部分払い適切工種について（まとめと課題）

今回の試行工事についてのアンケート、ヒアリングから、本方式への適切工種は、

- ① 180日以上工事。
 ② ブロック、ケーソン製作工事が有効。（出来高が把握しやすいため。）
 ③ 基礎工を含む防波堤築造（出来高を数量化しやすい。キャッシュフロー改善、資料削減の効果大）であることが分かった。なお、適切工事については、平成22年度には選択制が実施が予定されていることから、今回の結果の検証が可能となる。

課題として、「浚渫」に見られるように、発注者において、依然部分払いを出来高でなく出来形検査しなければならないという意識がありアンケートの差違になった。部分払いのための検査の簡素化の徹底及び簡易な検査のための技術開発が必要である。

7. おわりに

プロジェクトXの基本となる制度として、「施工プロセス検査・出来高部分払い方式」を中心に各種取組がなされている。その結果、「品質確保」、「キャッシュフローの改善」、「双務性の向上」がなされてきている。これらについてもアンケート及びヒアリングを実施しており別途成果を発表する予定である。また、本制度の課題も明らかになっており、特に受発注者の業務量の増加が課題である。これについては、発注者における本方式への理解不足（検査と給付の関係など）に起因するものも多い。今後も本制度の効率的な実施に向けた方策を検討、提案してゆきたい。

受注者ヒアリング	(ブロック製作工事)
	・部分払いにブロック製作はなじむ。
	・出来高は個数で把握でき請求が楽。
	(防波堤築造工事)
	・部分払いは、基礎工が実施しやすい。
	・出来高が数量（平米、立米）となるため月末締め可能。資料・書類削減にもつながる。
	・本体工だと、層毎など工種の節目となり、月締めしにくい。
	・基礎工の場合、下請けが工程毎に替わり、（捨て石等購入の割合が高く前半に集中）するため、部分払いが有利。